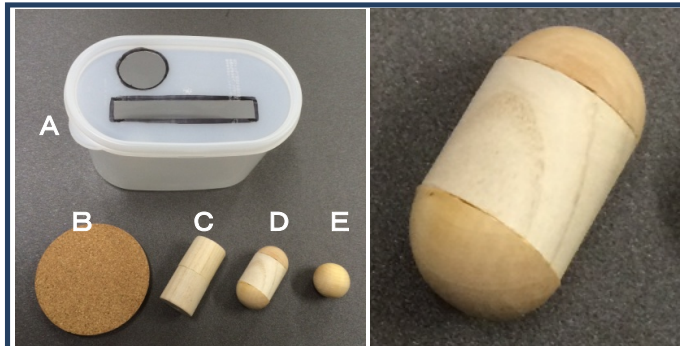


教材・教具名： 型はめ用のカプセル教材

製作者： 前岡

主な使用場面・領域・教科等： 自立活動（前腕の回内・回外運動，目と手の協応運動）

<図・写真>



※ Dを拡大したもの

※ A・B・C・Eについては、類似する教材があるため説明を割愛する。

<材料・製作方法等>

- A 170mm×95mmの楕円の容器に35mmの円，15mm×100mmの長方形の穴をあけたもの
 - B 直径90mmのコルクのコースターを2枚貼り付け厚さを10mmにしたもの。
 - C 直径30mm×長さ30mmの円柱をつなげ，直径30mm×長さ60mmにしたもの。
 - D 直径30mmの円柱に直径30mmの球を半分にしたものを取り付け，カプセル状にしたもの。
 - E 直径30mmの球体
- ※ 全て百均にて購入（計400円）

<ねらい>

球状の型はめ課題はできるが，円柱の型はめ課題に難しさがある（円柱を立てて入れることが難しく角がうまく入らない）児童に前腕の回内・回外の動作の獲得をねらうために作成した。

<指導方法・留意点等>

球入れ（E）の課題をクリアして，円柱入れ（C）の課題に難しさがあることが前提である。取り組み始めのころは球入れ（E）の課題とカプセル課題（D）をキャンディーボックスに入れて自ら取り出して入れるようにしていた。Cの課題ができるようになってからは，数個ずつE→D→Cの順に取り組んでいる。Bの課題はまだ少し難しさがあるため，1つだけ教師と一緒に入れることにしている。

<指導経過・成果・課題・展望等>

1学期・2学期で計8回上記のB・C・Eの課題に取り組んだが，Eの課題は簡単すぎ，B・Cの課題は難しすぎるようだった。そのため，カプセル（D）の課題を作成する（2学期途中）までは，やりたがらないことも多かった。しかし，Dの教材を作成し，できるようになったことで，課題に向き合えるようになった。

また，カプセル入れの課題ができるようになったことで回内・回外の動きを獲得することができ，円柱入れの課題もスムーズに行えるようになってきている。

加えて，Dの教材を作成後は，握り方にも変化がみられている。取り組み始めのころは，5指でしっかり握り，掌で穴に押し込む動作が多かったが，写真のように3指（親指，人差し指，中指）で握り，指先を使って入れられるようになった。握り方については，教師が特に指導したわけではなく，児童自身が「楽」に入れる方法を自ら見つけることができたという面で本人に合った手立てが大切であることを再認識させられた。

現在はBの課題の改善に努めている。ある程度，四角の枠を意識して入れようとする動作が見られるため，枠を斜めにカットしたり，コースターの角を削って入れやすいようにしたりして改善を図っている。

（※ 写真は上から活動の様子，握りの様子，コースターの角の違い）



削る前 削った後